

2024年度 U15ブロックDC

スポーツマンシップ講習

2024/12 JBAユース育成部会

1. 2023年度の振り返り
2. バasketボールの活性化のために大人が「スポーツの価値」を意識する
3. 共感力
4. ディスカッション (20)

1. 2023年度の振り返り

1. スポーツマンシップ
2. スポーツマンシップがなぜ大切か？
3. リスペクト（大切に思うこと）を子ども達に伝えよう
4. フェアプレー精神を子ども達に伝えよう
5. ライフスキル
6. 全力を尽くす大切さを子ども達に伝えよう
7. 過程を評価することも育成世代では大切
8. バスケットボールを通じて、何を子ども達には学んで欲しいか？

2. スポーツ（バスケットボール）は長期的には危機的状況にある

スポーツを行うことが応援されない時代？

スポーツには価値があることを子供達、保護者に感じてもらわなければ、
将来スポーツを行わなくなる時代が来るかもしれない危機感を持ってほしい
→ **楽しさや価値を伝えなければスポーツから離れていく**

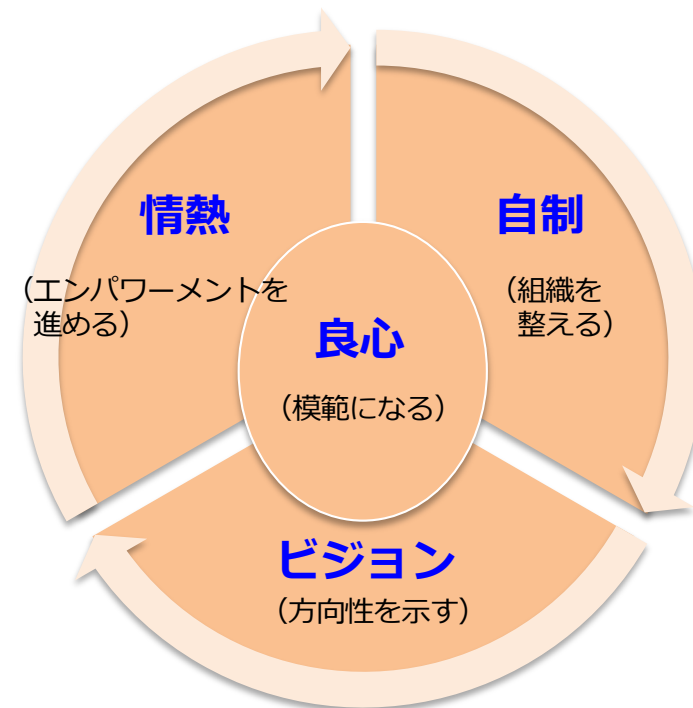
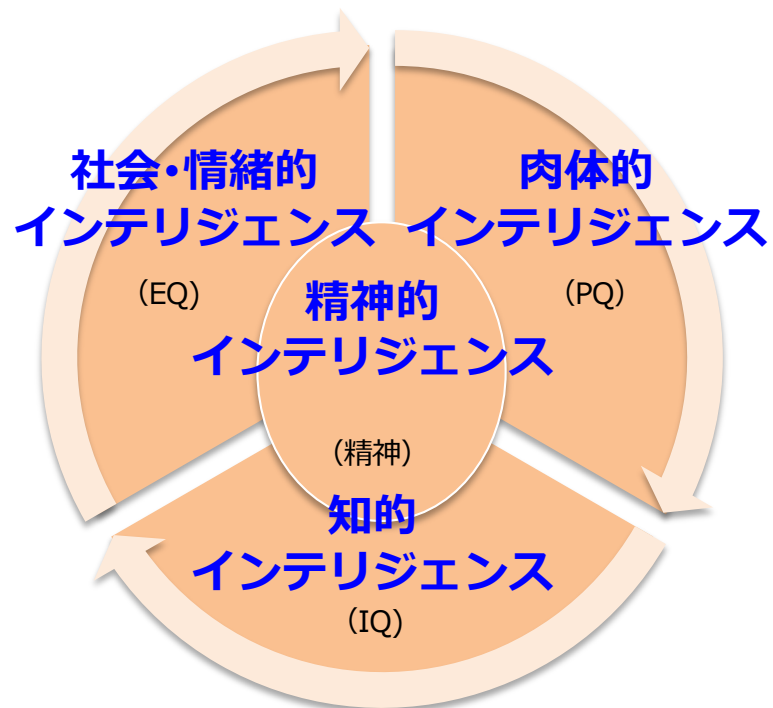
<スポーツの価値>

- ・ **他者と交流** するのには最適なツール **交流、仲間づくり**
- ・ **良き社会人** になる要素を学ぶ **リスペクト、フェアプレー精神、エクセレンス**
- ・ **信頼関係** の大切さを学ぶ **共感力**

リスペクト、フェアプレー、エクセレンスは
IOC（国際オリンピック委員会）JOC（日本オリンピック委員会）でも
大切にしようと強調されている項目である

3. 共感力

- ・「共感力が最も重要」 FIBAユーロコーチ教育担当マイケルシュワルツ氏
- ・ EQ＝ソフトスキル能力の大切さ
- ・ 「信頼関係構築」には「まず理解に徹し、そして理解される」
- ・ リスペクトは、他者を大切にすること



第8の習慣より

- ・何かを成し遂げるための自信を他者に与える「言葉」や「行動」
- ・ライフタスク（人生で直面するチャレンジ）に対して、他者と協力していくことができる気持ちになれるように援助すること（アドラー心理学）

【「励まし」とエンカレッジメントの違い】

- ・「頑張って」と言われて元気が出るのは、余力があるとき。
余力のない人は、励ましてはいけない。
- ・余力のない人に対するエンカレッジは、まず「そういう状況だとしんどいのは当たり前だね」と**共同体感覚的**に受け入れることから始める。
- ・「相手の目を見て、相手の立場で聞き、相手の心を感じる」とによって**共感的に理解**し、存在そのものを受け入れる。

【「褒める」と「エンカレッジメント」の違い】

- ・「褒める」こと : 「条件付き」である。
エンカレッジメント : 成果・結果だけでなく、チャレンジ、プロセス、失敗に対しても行う。
- ・「褒める」こと : 行為をした人に対してなされる。
エンカレッジメント : 行為そのものに対してなされる。
- ・「褒める」こと : ますます競争を意識し、周囲の評価を気にする。
エンカレッジメント : **自分の成長・進歩・向上に意識が向かい、自立心と責任感が生まれる。**



- ・「褒められる」こと : 嬉しくて満足するが、必ずしも持続しない。
褒められることに依存すると自己肯定の根拠を他者に求めてしまい、想像力と共感力の欠如した人となる
- エンカレッジメント : 自己肯定感が高まり、明日への意欲、持続性が生まれるという強い傾向がある。

4. ディスカッション

- ① 指導者自身が「共感力」を高めるためには？
- ② 子ども達が「共感力」を高めるための方策とは？

<方法>

- 1) メモパッドに感じたキーワードを書き出す（5つ以上）2分以内2セット
- 2) グループ内でメモを貼り出して分類、グループ内で確認 2分以内2セット
- 3) グループからの発表

5. 発表

- ・ 2分以内で代表者が発表してください。
- ・ 他グループの意見を共有し、受け入れましょう。